

研究協力のお願

練馬光が丘病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

ミッドラインカテーテルの使用に関する後向き観察研究

1. 研究の対象および研究対象期間

2023年10月1日～2024年6月30日の間に総合診療科に入院されミッドラインカテーテル留置された症例

2. 研究目的・方法

入院にあたって多くの患者様が点滴や採血を必要とします。点滴に通常使うデバイスは3日程度たったり、漏れたり、腫れたりしても交換が必要になります。特に長期にわたって点滴をしたり採血をする患者様は、何回も採血や点滴ラインの取り直しのために針刺しをうけることがあります。複数回の採血や長期の点滴加療が予測される患者さんに対して、中心静脈カテーテルや末梢留置型中心静脈カテーテルというデバイスが開発されています。これらのデバイスは管の径が太いことから様々な薬剤の投与ができたり、採血も可能というメリットがありますが、デバイスが原因で感染症や静脈血栓症がおきるという有害事象も報告されています。近年、ミッドラインカテーテルという、普通の点滴のカテーテルと中心静脈カテーテルの中間に位置するデバイスが開発されました。日本では近年認可されたばかりのデバイスですが、海外では豊富な使用経験があり、なかでも感染症の頻度が少ないことが示されています。本研究は、通常の診療範囲の一環として長期の点滴や複数回の採血が予想される患者様に対してミッドラインカテーテルを留置することを後ろ向きに検証し、有害事象の頻度を調査するものになります。

研究期間

練馬光が丘病院の倫理委員会にて審査後、委員会から発行される結果通知書の承認日より、実施機関の長の研究実施許可を得てから～2026年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、基礎疾患、入院疾患、留置にかかった時間、適応、留置した者、留置デバイスのLumenの数、留置した期間、留置している間に起きた合併症(静脈血栓症,カテーテル関連血流感染,閉塞,静脈炎,漏出,予期せぬ抜去,刺入部出血),昇圧剤や薬剤投与

4. お問い合わせ先

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：練馬光が丘病院 総合救急診療科 総合診療部門

氏名：原田 拓

住所：東京都練馬光が丘2-5-1

電話番号：03-3979-3611

研究責任者：練馬光が丘病院 総合救急診療科 総合診療部門 原田 拓